

(様式第4号)

上田市消防委員会 会議概要

1 審議会名	上田市消防委員会
2 日時	令和 4年 7月 27日 午後 1時30分から午後 3時40分まで
3 会場	上田地域広域連合消防本部 3階大会議室
4 出席者	宮島会長、上原委員、荻原委員、小相沢委員、清水委員、廣川委員、堀内(健)委員 堀内(正)委員、宮阪委員、宮川委員、宮崎委員
5 市側出席者	堀池消防部長、西澤消防総務課長、長谷川消防団担当政策幹、 高橋消防総務課長補佐、峯村消防総務課長補佐、福澤上田市消防団長、 沓掛上田市消防団副団長、宮原上田市消防団副団長、山岸上田市消防団副団長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和 4年 7月 28日

協 議 事 項 等

1 開 会 (消防総務課長補佐)
2 あいさつ (1) 堀池消防部長 (2) 福澤上田市消防団長
3 自己紹介 池田副会長、箱山委員、堀内(希)委員 欠席
4 諮問 (1) 上田市消防団の団員確保策に関する事 (2) 上田市消防団員の負担軽減に関する事
5 協議事項 (1) 上田市消防委員会の役割について (資料番号1) ・資料に沿い、消防総務課長補佐から上田市消防委員会条例について概要を説明 ・以降、協議 質疑等なし。 (2) 上田市消防団員の確保策について ア 令和3年度の諮問・答申及び市の対応について (資料番号2) ・資料に沿い、消防総務課長補佐から令和3年度の諮問・答申及び市の対応について概要を説明 質疑等なし イ 審議スケジュール (資料番号2) ・資料に沿い、消防総務課長補佐から審議スケジュールについて概要を説明 ・以降、協議 (委 員) 退団者が多かったのはなぜか。 (事務局) 無活動団員が退団したためである。 (委 員) 団員の確保策は、女性、学生、機能別のみを検討するのか、それとももっと広く検討する のか。

- (事務局) 広く検討したいため、沢山意見を出していただきたい。
- (委員) これでは答申のイメージがわからない。
- (議長) あくまでスケジュールの話で、最終的には団員確保が目標でよい。
- (委員) 私が消防団員のころは半強制の入団だったが、今はお伺いを立ててからだと聞いているため、団員確保に苦慮していることは解る。団員を雇用している企業に補助金等を出した方が良いのではないか。
- (事務局) 上田市では現在約80社が上田市消防団協力事業所として登録しており、事業税を10万円の減免を限度として受けているほか、県の事業の入札が有利になるなどの特典がある制度で、土木関係の事業の登録が多い状況である。
- (委員) 私のころは35歳ぐらいで退団できたが、今はなかなかやめられないと聞いているため、行政で何とかして欲しい。
- (議長) 私の会社も消防団協力事業所で、消防団員を雇用しているが、団員が就業中に災害に出動したいと言われたことがない。出動したいということが言いにくいのもかもしれないので行政からの後押しも必要と考える。

ウ 上田市消防団の課題

- ・上田市消防団長から上田市消防団の課題について説明
- ・関連があるため続けて説明

エ 上田市消防団の現状について

- ・資料に沿い、消防総務課長補佐から上田市消防団の現状について概要を説明
 - ・以降、協議
- (委員) 昨年度の委員会で、団本部と分団が考えた定員に差があったと思うが、団本部としてどのように考えているか。
- (事務局) 大枠の定員を改正した時の数字は、ここらしいの数として出した数字である。
- (消防団) 人口規模の大小により各分団に違いはあるが、人口規模の大きい地域でも団員になってもらえないところがある。街中の第1、第2、第3、第5、第6、第7分団には積極的に団員確保を依頼している。
- (委員) 分団と団本部の考えを同じにしないといけないので、分団とよく話をしてほしい。
- (委員) 令和2年度、3年度の退団者が多かった理由と、入団者が少ない理由、昨年度の資料に機能別という記載があり、数が載っていた理由は何か。
- (事務局) 退団者が多い理由は、令和2年度から団員の年額報酬を口座振込にしたことにより、無活動の実態が明らかになった団員が多く退団したため、入団者の減少の一番の原因は少子化である。また、機能別の数字はあくまで定員内の数字である。
- (消防団) 入団者の減少については、コロナ禍で勧誘できない影響である。
団として、確保策を検討しているがなかなか上手くいかない。特に人口規模が大きいところの入団者が少ない。
- (委員) 年額報酬の個人口座への支給は10年も前からのことで、これにより退団者が増えることは解っていたことだが、団としてどのような考えを持っているのか。
- (消防団) 定員の1,850人を目指したい。
- (委員) 機能別を入れることを前提に審議するのか、また、機能別は定員の範囲内なのか。

- (事務局) 機能別は、定員の範囲内である。
- (消防団) 数字を見てもらってお判りいただいたと思うが定員に達していない状況で、基本は基本団員だが、機能別を含めて定員を満たしたいと考えている。
- (議長) 報酬を上げた後の団員確保の状況はどうか。
- (消防団) 今のところ良くない。

オ 女性消防団員について

- ・資料に沿い、消防総務課長補佐から女性消防団員について概要を説明
 - ・上田市消防団副団長から勧誘方法等について説明
 - ・以降、協議
- (委員) 一つの考え方もかもしれないが、若い人というイメージがあると思うが、年齢層を上げてても良いのではないか。
- (消防団) 年齢層は、女性消防隊ペナテス発足当時は本部所属で女性団員は若かったが、今は分団所属で年齢層も幅広くなっている。
- (委員) 機能別として女性団員も良いと考える。
- (委員) 女性団員は各分団の定員の中で確保するのか。また、女性団員には何の業務を行ってもらえるのか。
- (消防団) 女性団員の活動では、操法を行う者もいる。女性団員の割合は考えなければならないが、基本団員が第一と考えるが、バランスは考えなければならない。
- (委員) 女性団員を確保するためには、団としての考え方をしっかり持たないといけない。市の職員の入団についても、団長が市長のところに行って市の職員を入団させることを言うてこなければいけない。
- (消防団) 団員が少なくなってきているので、女性の力も借りて団活動をしていきたい。女性団員の割合は、総務省消防庁では5%となっているので、そこを目指したい。
- (委員) 市の職員の消防団入団については、答申書に記載していただきたい。
- (議長) 女性や学生にも協力いただき、団員数を増やして行くということで良いか。
- (事務局) そのとおりです。
- (委員) 一人暮らしで自治会との繋がり無い人に対する、情報発信が必要と考える。また、入団者の内訳も教えてほしい。
- (委員) 平日の昼間は、消防団員や男性、若い女性は地域に居ないところもあるので、女性団員確保は地域でもよく話し合った方が良い。
- (委員) 私は日赤奉仕団なので、女性団員と活動が同一のものがあるため、一緒に活動できるのではないか。

カ 学生消防団員について

- ・資料に沿い、消防総務課長補佐から学生消防団員について概要を説明
 - ・上田市消防団副団長から勧誘方法等について説明
 - ・以降、協議
- (議長) 認証制度のPRや市の対応についての説明をお願いします。
- (事務局) 上田市学生消防団活動認証制度については、制度導入から今のところ活用いただいた事例は無いが昨年度、学生団員が就職面接の際に、上田市消防団で活動していたことを話し就職

に繋がった事例もある。

(委員) 私は大学に勤務しているが、この認証制度を知らなかった。

地域活動に興味のある学生もいると思うので、消防団員から話を聞く機会があると良いと思う。

(委員) 以前大学に勤務していた時に、地域活動も行っている学生が分団に勧誘され入団したと言っていた。地域活動を行う学生もいるので、そのような学生が消防団という組織を知る機会を考えてほしい。

協議結果：継続審議となる。

6 その他

・次回開催日について委員に予定等を確認し、9月26日(月)からと決定上田地域広域連合消防本部3階大会議室で開催することに決定する。

7 閉会